

# 日本海沿岸における近世湊町の都市設計論理に関する研究

—土崎・酒田・新潟・三国・敦賀を対象として—

A Study of Design Principles of Port Town in Japan Sea Coast

- A Case Study of Tsuchizaki, Sakata, Niigata, Mikuni and Tsuruga -

○加藤賢一<sup>1</sup>, 阿部貴弘<sup>2</sup>

\*Kenichi Katou<sup>1</sup>, Takahiro Abe<sup>2</sup>

Abstract: In recent years, city planning in Japan sea coast is worked actively focus on its history. This study clarifies the design principles of the five port towns, Tsuchizaki, Sakata, Niigata, Mikuni and Tsuruga in Japan sea coast.

## 1. はじめに

近年、日本海沿岸の港町や城下町では、都市の履歴を加味したまちづくりが盛んに行われている。近世において物流の拠点として発展を遂げた湊町の設計論理を明らかにすることは、近世都市の都市構造を理解する上で必要であると考えられる。

従来の湊町研究<sup>[1][2][3]</sup>では、湊町設計に関する史料の数が城下町などに比べて圧倒的に少ないため、土木史的視点から湊町の都市設計論理を説明する十分な研究成果が得られているとは言い難い。

本研究では、近世日本海沿岸における湊町の設計論理を比較分析し、近世城下町と比較考察することで、近世都市における設計の特質を明らかにする。

## 2. 研究対象

本研究では、近世の日本海沿岸において栄えた湊町 5 都市を対象とした (Figure 1)。

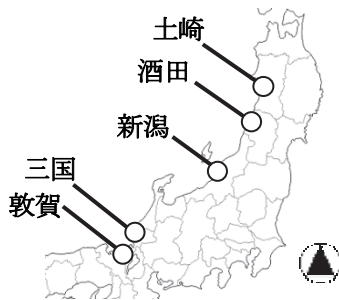


Figure 1. Target Site

## 3. 研究方法

### (1) 調査方法

文献及び史料より湊町の設計論理に関する情報を工学的観点から整理する。

### (2) 分析方法

本研究では、Table 1 を分析視点とし、湊町設計の特質を読み解く。

また、詳細な微地形を把握するため、大規模な地形改変がないことを前提に地形図を作成した。

Table 1. Research Method<sup>[4]</sup>

設計論理	モジュール	宅地奥行きや街区形態は、近世における史料を参考に現在の 1/2500 地形図に重ね合わせ町の骨格を復元。基準となったモジュールを明らかにする。
	設計標準	街路幅員や水路幅はモジュール計測とあわせて行い、もしくは史料絵図の記載情報に基づき計測。町割における標準を明らかにする。
	町割の基軸	近世湊町は基盤上の町割が多い。街路の「ずれ」に着目し、復元した地形図から街路の交差角を計測し、街路のずれの要因、ずれの度合いを把握。
	町割の基点	街道の基点などの交通結節点と町割との関係に着目し、町割の基準となった点を明らかにする。

## 4. 調査結果

文献及び史料から対象地の基礎的情報を整理する。

Table 2. Summary of Tsuchizaki

建設経緯	佐竹義宣公が湊城を去り、武家屋敷が残った。その後急速に町人地が開発。
開港年	中世
地形・地質	雄物川の河口部に位置する砂丘地帯
開発の特徴	残った武家屋敷が空き家になり町人らによって空き家を再生し、町割りが発展。宿場町としての機能も有していた。
主要街路	羽州街道
街区および街路網	佐竹氏が築構した湊城下の街区が反映されていると推測。

Table 3. Summary of Sakata

建設経緯	大永年間に宮野浦から当酒田へ移転後、開発が活発化。
開港年	中世
地形・地質	最上川河口部に位置する庄内砂丘。
開発の特徴	三十六人衆の町政による開発。火災により
主要街路	東から西へ平行にひかれた通り (寺町通り, 本町通り)
街区および街路網	縦軸方向：京間 60 間, 横軸方向：京間 40 間を基本とした街区。

Table 4. Summary of Niigata

建設経緯	元和 4 年堀直寄が長岡藩主になり、湊町づくりが本格化。
開港年	近世
地形・地質	信濃川により形成された海岸砂丘。
開発の特徴	経済保護策、町の拡充、建築制限、身分別の居住地制限、街路整備
主要街路	白山神社に向かう古町通りをメインストリートとして整備。
街区および街路網	最も短い街区：約 70 間, 最も長い街区：約 115 間, 町の中心部：約 92 間。

Table 5. Summary of Mikuni

建設経緯	福井城下町が廻り船の出入りする湊がなかったため、福井城の外港として選ばれ開発が進行。
開港年	中世
地形・地質	九頭竜川と竹田川に沿った立地。
開発の特徴	南北に細長くまちを拡大しており、中心市街が地形の変化により移転。
主要街路	下町通りを軸に整備。
街区および街路網	右岸の街区は、地形の変化もしくは浸食による変化によると推測する。

Table 6. Summary of Tsuruga

建設経緯	1975~1596 年敦賀城が築構。これにより町人地の町割りが確立。
開港年	古代
地形・地質	笹ノ川, 尻屋川による扇状地。
開発の特徴	相次ぐ領主の交替の中で、城下町としての機能も持っていた。
主要街路	博物館通りを含む東西に延びる街路。
街区および街路網	不明

1 : 日大理工・学部・まち 2 : 日大理工・教員・まち

## 5. 分析結果

調査結果を基に分析した結果を **Table 7** に示す。

日本海沿岸部での湊町設計は、地形条件にそった設計基準が定められた都市が 5 都市中 4 都市であり、微地形との関係性が高い。一方で三国においては、町割の年代によって設計標準、町割の基点が異なっている。

## 6. 考察

### (1) 各都市間の比較考察

共通点として、各湊町では町の中心部から離れた小高い山に向かってモジュールが拡大しており、街路幅も高幅員になっている。主に米蔵が配置されており、微地形に着目した場合、微高地であり、湊町の経済を支える機能を優先して設計されたと考えられる。

相違点として、都市設計と各都市の成立年代による先行基盤との関係性が挙げられる。中世から湊の機能を有していた場合、一定の基準はなく、自然地形に従った設計であった。それに対し、町の移転などで近世から町割りされた都市では藩主や商人が行政を行い、地形を考慮した計画的な設計であったと考える。具体的には、町割となる基軸を平坦な地に設けていることである。これにより一定の基準で街区の設計ができ、基軸沿いとなる中心地には整然とした街並みを作ること意識していたと考える。

### (2) 湊町設計と城下町の町人地設計との比較考察

城下町設計との共通点は、商人などの民主導による設計において町の機能を優先していたことである。湊

町設計においても北前船の運航で、船着場や貨物倉庫となっていた蔵の機能を優先させ、ある一定のモジュールを確保していたと考えられる。

## 7. まとめ






本研究においては、湊町の都市設計論理を明らかにするため、地形図及び絵図などを用い工学的視点で分析を行った。その結果、近世湊町においては都市の機能を重視した上で、微地形を考慮した設計であったと考えられる。近世城下町との比較では民主導の設計の考え方に共通する部分が見られた。

今後は、各湊町設計に関する情報をさらに詳細化し、より精緻な比較分析を行っていく。また、他の近世湊町の設計論理についても分析を行う必要がある。

## 8. 参考文献

- [1]竹内滋, 渡辺貴介, 村田尚生:「近世における港町の空間構造に関する研究」,日本都市計画学会学術研究論文集 Vol.31, No.27, pp.277-282, 1996
- [2]渡辺貴介, 水野雅男:「港町の地形と都市形態による分類—明治末期～昭和初期の地形図による比較分析—」,日本都市計画学会都市計画報告集, No.5, pp.111-119, 2017
- [3]石塚啓太郎, 岡崎篤行:「日本海沿岸における近世港町の成立経緯と都市形態—東北・北陸を対象として—」,日本都市計画学会都市計画報告集, No.17, pp.430-435, 2019
- [4]阿部貴弘, 篠原修:「近世城下町大坂,江戸の町人地における城下町設計の論理」,土木学会論文集 D2 (土木史), Vol68, No.1, pp.69, 2012
- [5]内山大, 樋口忠彦:「港町新潟の江戸時代の町割りについて」,日本土木史研究発表会論文集, pp.91-98, 1985

Table 7. Result of Analysis

		土崎	酒田	新潟	三国	敦賀
対象地						
	モジュール	<ul style="list-style-type: none"> <li>基準とされる街区はおおむね長方形の街区形態。</li> <li>米蔵などのある御蔵町はさらに大きい街区を設けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>長辺は京間 60 間</li> <li>短辺は京間 40 間</li> <li>中心部での街区は正方形に近い街区形態。</li> <li>日和山に向かって南東から北西にかけ徐々に街区が拡大している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>内山による街区の計測<sup>[2]</sup>を基にする街区モジュールにはばらつきがある。</li> <li>基本は 1 ブロック 2 行の短冊型で、1 行の奥行は 25 間と推定。最も短い街区で約 70 間、長い街区で 115 間。</li> <li>堀の屈折点でずれがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>街区には統一性をみることはできない。</li> <li>間口方向にもばらつきがある。</li> <li>街区形態についても一定の基準を設けられていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>川東地区の街区は南北方向に延びる街区設計。</li> <li>川中地区は寺社ラインから海岸にかけ東西にのびる街区。</li> <li>海岸から後背地にかけて放物を描くように街区が形成されている。</li> </ul>
設計論理	設計標準	<ul style="list-style-type: none"> <li>御蔵町における街路で 13 間の街路幅員。</li> <li>それ以外の町を通る街路では 4 間から 5 間の幅員。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東西に延びる本町通り、寺町通りが幅員を保つ。</li> <li>本町通り、寺町通りに交差するように敷かれた小路の幅員にはばらつきがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>信濃川に向けて直交する、西堀と東堀、堀の幅は 4 間、その両側に 3 間から 4 間の街路を配置。</li> <li>前面河川となる信濃川にかけて傾斜があるため、川からの砂の流入を考慮している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>下町通りは後背に台地が迫っているため河川に沿って自然に発達した背景から、屈折を繰り返している。</li> <li>台地の平坦な地形に通りが設けられている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>浜線の発達した弧状の海岸線を基調とする東西に屈曲した街路を軸に直交するような放射状の街路を通す。</li> </ul>
	町割の基軸	<ul style="list-style-type: none"> <li>南北にのびる羽州街道を基軸にほぼ直角に各町に小路が通されている。</li> <li>街道は平坦な地形に位置するのに対し、小路は傾斜に沿ったもの。</li> <li>旧雄物川沿岸に港湾施設を設けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東西にのびる本町通り、寺町通りに対し交差する街路はほぼ直角に交差。</li> <li>新井田川に沿う街路が微地形に沿った設計をしており、街区モジュールにずれを生んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>西堀、東堀(通り)は微地形を考慮し、白山付近で屈折させている。南西に位置する白山の傾斜に沿っている。</li> <li>堀に対し小路がほぼ直角に交差している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>下町通りを基軸に一定の街区が形成されている。</li> <li>交差角に統一性がない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>川東地区では海岸線に沿って一定の大きな街区を形成。</li> <li>川中地区では東西に延びる街路を基軸に弧を描きながら一定の街区及び寺社ラインを形成している。</li> <li>街路はほぼ直角に交差。</li> </ul>
	町割の基点	<ul style="list-style-type: none"> <li>雄物川沿岸に設けられた米蔵</li> <li>平坦な地形に南北に延びる寺社ライン。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>河岸に設けられた蔵及び日和山を基点としている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>西堀、東堀に沿って一定の街区が形成されている。</li> <li>堀と小路が交差する点を基点とし、一定基準の街区を形成。</li> <li>北の基点を日和山、南の基点を白山神社としていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>点在する寺社が基点となり、街区及び間口が形成されている。</li> <li>下町通りから枝分かれする小路は方向が不規則に延びており、各小路の結節点間の距離にばらつきが見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>川東地区では海岸線と南北に敷かれた小路を基点に船着き場を形成している。</li> <li>川中地区では尻屋ノ川にかかる橋柱ノ川にかかる下ノ橋を基点に平坦な地形に町割りを行っている。</li> </ul>